「～災害支援からみる～　“社会貢献する専門家“」アンケート報告　20181023

有効回答　　４１（一部未記入、複数回答含む）

１　年代（建築士９　士会会員１９　士会会員外２　その他４）

Ａ10～20 代	３
B30 代	８
C40 代	８
D50 代	８
E60 代	１０
F70 代以上	４

２　セミナー開催を何でお知りになりましたか？

Ａ建築士会会報	１８
Ｂセミナー案内（チラシ）	４
Ｃ友人、知人からの情報	１３
Ｄその他（　　　　）	３

３　セミナー内容について

Ａ参考になった	31
Ｂ不十分だった	２
Ｃその他	２

「Ａ参考になった」

- 先人に学び、事例に学び、それらを自分のものとして、市域、隣人に貢献できる態勢を整えることを思った。
- 専門的なスキルも大事だが、建築士のもつ調整力などのスキルも大事で役立つのだと気づかされた。
- 差し迫った現実を知らされた。喫近の課題なのを実感した。
- 日頃の地域のコミュニティやネットワークが大切で重要だと感じた。
- 災害にあってからの色々な事象に対しての対応を事前に考えさせられました。
- こういったのを建築だけでなく多くの人に聞いてほしい。今北海道の地震で再び防災の意義が言われているがいつまでそれが効くか。
- テレビのニュースでは報じられない被災地の状況を知ることができた。
- 知らなかったことがまだまだ沢山あり勉強になりました。
- 建築士の役目の自覚
- 皆が協力して災害に対応していかないといけないことを感じました。
- 避難所の運営と実情
- 避難所の収容基準など考えたことがなかった。

・社会に貢献することの大切さを感じた。
・教育は社会に還元するためのものであり、災害支援の大切さを感じた。
・建築物や地震についての講演会にはこれまで出席しているが、災害支援についての講演会は初めての経験で勉強になった。
・教育の大切さを感じた。
・～してくださいといった説明が良かった。
・被災地の現状を知ることができた。
・避難所は１校で体育館や教室を活用して最大 2,000 人、配支給は班編成で行うことなどが参考になった。
・建築士としてその時何ができるかと言われてどきっとした。
・我が国の女子大学で住居学科は少ない中、創立 120 年を迎える日本女子大学の沿革を知ることができた。
・色々と具体的であった。
・物事を進めていくには、的確な判断力や指導力を持ったリーダーが必要である。

「不十分だった」
・建築士が被災地での活動実態が分かればよかった。
・具体的に建築士との関連・働きの話が少なかった

「その他」
・先生８０分しゃべった？

４　災害支援において、建築士の役割をどのように考えますか？

Ａ非常に重要だ	１８
Ｂある程度は重要だ	１６
Ｃその他	１

「Ａ非常に重要だ」・「Ｂある程度は重要だ」
・関係者として連携をとる事、マネージメント力をも持って参加するべきだと思う。
・被災した住宅の再建についてのアドバイス。
・応急危険度判定
・建物の被害状況がある程度分かるため、相談が可能である。
・知識を社会に提供することが大事と教えられました。
・建築の知識。空間構成力を生かす。
・建築士としての役割ではなく、建築士として学んだことや、日頃の業務の知識を役立てることが重要だと感じた。（B）
・建物の安全性の確保が重要になると思います。（B）
・職能を活かす場（応急危険度判定士など）である。（B）

・建物形状や用途などにより設計の仕方や考え方が色々あると思う。常に追求し、より良い建物を１つでも多くできるよう頑張っていかねばならない。
・例：住宅の耐震化が進まない　→　行政の補助拡大（B）
・行政の助けを待っているだけでは被害が拡大するため。
・行政の行動が最重要と考える。（B）
・災害に強い建物、機能性のある建物を設計する。古い建物の安全性の判断。（B）
・耐震診断等に協力できる。
・建築士に関わらず、皆が考え、協力すべき大変重要なことであると考える。
・建築士は、より早く情報を掴み行動して欲しい。
・建築士としての日々の仕事が災害支援に役立つのではないか。
・被災者の心配をやわらげるよう、建物に対する判断が必要であり、住宅相談が大切であると考える。
・衣食住の一つであるため。
・知識、技術等を持っている者が活きるため。
・生活の器としての建築物のエキスパートとして。
・建築相談等において貢献できるのではないかと考える。
・行政等からの要請に対して、タイムリーに支援活動に参加できるかどうかに掛かっているのではないか。
・建築士ならではの分野が多いから。
・建築の崩壊によって避難した人が災害にあってしまうことなど。

「その他」

・記入無し

５　災害支援の一環として、被災地におもむき、ボランティア活動等に行った事はありますか？

A行ったことがある	７
B行ったことはない	２７
Cその他	１

「A行ったことがある」

・未記入
・住宅相談、キャラバン隊
・阪神大震災、中越地震の住宅相談
・仕事の関係。
・常総市鬼怒川水害で緊急支援物資を自ら届けに行った。
・キャラバン隊
・宮城県山元町に植栽ボランティアの補助として参加した。
・中越地震でのキャラバン隊

「B 行ったことはない」

- （失礼ながら）事故の見学により業務に生かし、社会で語った。被災地に行く順番が来る前に終わった。
- 一緒に活動する仲間がいないため。
- まだ、機会と要請が無いため。
- 会社勤務で自由に時間が使えない。
- 多忙
- どうやって、被災地ボランティアに参加したらよいのかがわからない。
- 時間があまりない
- 新潟中越、中越沖で募集があったが、本業が多忙なため断念した。
- 自分に何ができるかがわからない。
- 被災場所が遠くなかなか行動に移せない。
- 余裕がありません。社会貢献しなければとの気持ちが足りてません。誰かがやらなければいけませんね。
- なかなか積極的になれない。
- 仕事といえば口実になるが、「対岸の火事」の如くの立場に居る。被災経験がないのが要因。被災すれば考え方がかわると思われる。
- 自身の健康に自信がないため。
- 声が掛からなかったため。
- 仕事とのタイミングが合わなかったため。
- 大震災を経験していなかったが、ボランティアに興味が沸いた。
- 機会がない。
- 日帰りで行ける場所があるなら行きたいが、力も体力もないので邪魔になってしまう気がする。

「C その他」

- 記入無し

６　災害支援として、建築士はどのようなことが出来ると思いますか？

- 建築物の安全性
- 建築士に連絡、応援を要請する。
- 避難所における動線計画、ブースの配置の計画等
- ネットワークや組織体制を事前の準備でどこまでできるか色々討論していかなければならないと思った。
- 建物の程度（被害）
- 住宅相談、応急危険度判定、首都圏被災では予測不能！
- 建物に災害支援に必要な機能を盛り込む
- 耐震診断

・もっと災害支援が必要な被災地と密に連絡を取り情報を公開すべきである。
・街頭などでの募金活動を実施すべきである。
・日々の仕事の中で災害支援について考えていくことが大切ではないか。
・これから考えていきたい。
・一番は、災害に強い建物や街づくりを行うこと。
・生きるために必要な衣食住の大切な部分を担っているので、できることは多い。
・避難所の設置、危険度判定、復興住宅、再建に向けての相談など。
・応急危険度判定や被災地住宅相談
・建築相談
・単純作業はもちろんのこと、求めに応じて様々な場面で培った経験等をもとにリーダーシップを発揮できるのではないか。
・建築相談など多岐に渡る。
・キャラバン隊
・どのようなことができるか思いつかない。
・災害が起きてから出来ることは少なく、再建に向けた相談くらいで、結局は施工業者が必要である。
・建築士の資格を持っていても、話を聞いて、依頼、管理、調査くらいしかできない。
・耐震の促進が１番大切である。

７　今後、このような講習会がありましたら、ご参加頂けますか？

Ａ参加したい　３３
Ｂ参加しない　１
Ｃその他　４

（具体的に、希望する防災に関する講習会内容）
・各種各様の変化があるから継続を要す。
・近い災害を意識した内容
・防災の事前準備に対する考え方
・避難所のあり方（特に首都圏において）

８　その他　ご意見等をお願い致します。
・自分も「日頃の活動を非常時にいかす」と言う事を実行していきたいと思いました。
・横のコミュニケーションは大切
・子供会、おやつや牛乳の配布、食育で、今、「子ども食堂」なるものが各地に出来ているが、丸山千代の精神を現代に引き継ぐものなのでしょうね。
・現在、自宅町内会の防災体制の再構築途上でいろいろ悩ましい状況あり。
・自分に何ができるだろうかを毎日考える必要があります。ありがとうございました。
・教育の中で支援を考えていく必要があるのではないかと思った。

・後半駆け足になってしまったので、もう少ししっかりと話を聞きたかった。
・かなり広範囲な話だったので、的が絞りにくかった。
・教育、訓練、予防などが大切だと知らされた。
・登壇者はマイクを持って話をした方が良く、聞こえなかった。
・具体的な説明で勉強になった。

以上。